

令和８年度 第５回生坂村ゼロカーボン推進プロジェクト会議録

日 時：令和８年８月２８日（金）１０時００分

場 所：村民会館講堂

村長より

- ・（株）いくさかてらすの株主については、合同会社 HiTTiSYO が辞退することになったため、代わりに中山組にその分を引き受けていただき、本日から会議にもご出席いただくことになった。
- ・マイクログリッドについては、（株）いくさかてらすの登録特定送配電事業者への登録がようやくできたが、まだこれから中部電力との調整等があり、電気関係はこれほどいろいろな登録や調整が必要なのかと、ここへ来て改めて驚いている。専門家である皆さんにお願いをしながら、また私や村のアドバイザーも環境省や資源エネルギー庁へ要望に伺うなどしながら、この事業が順調に進むよう、引き続き努めてまいりたい。
- ・民家向け省エネ機器等の補助については、省エネエアコンや LED への補助は 2,000 数百万円の予算が今年度は既に打ち切りとなった。来年度どのくらいの予算がつけられるのか、担当部署と環境省でしっかり調整をしながら、なるべく多くの村民の皆さんに補助ができるよう努めていきたいと考えている。
- ・事務局サポートということで、松本山雅さんには今年度からしっかりと対応していただき、前年度よりもスムーズに色々な情報を流していただいている。
- ・８月８日には、断熱関係の PR を道の駅いくさかの郷で行った。薪ストーブ、ペレットストーブ、断熱関係はまだ民家向け補助の予算が残っているので、これからも PR をしていきたいと考えている。
- ・この会議で色々な協議をしっかりと進めながら、この大きな事業を順調に進めていきたいと思っている。引き続き、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

【協議事項】

○令和８年度マイクログリッド事業について

以下の進捗と予定について説明。

- ・ 令和8年8月13日、(株)いくさかてらすが「登録特定送配電事業者」として正式に登録された。登録特定送配電事業者とは、自営線を使って特定の場所へ電気を供給することができる事業者のこと。
- ・ 生坂村が進めている地域マイクログリッドにとって、今回の登録は大きな一歩となる一方、登録が済めばすぐに電力供給を開始できるわけではなく、今後は、中部電力からの逆潮流に関する許可→中部電力による対策工事→各施設の切替工事という順に工程を進めていく。
- ・ 中部電力からの回答は10月20日を予定しており、その後の対策工事には1～2か月程度、各施設の切替工事には2か月前後を見込んでいる。切替工事は停電を伴うため、各施設の利用状況などにも十分配慮しながら進める。
- ・ 草尾地区では、犀川を横断する架線工事と蓄電池の新設工事を進める。犀川架線横断工事は、9月中に河川占用許可・地権者同意を得られる目途で、その後10月～翌年1月に建柱・横断工事を予定している。蓄電池については、11～12月に基礎工事、翌年1～2月に据付・配線工事を進める計画である。
- ・ また、経済産業省への保安規程・主任技術者の届出などが進めば、太陽光発電設備がまだ設置されていないB&G 海洋センター、商工会館、健康管理センターは先行してマイクログリッドへの切替えが可能。

○令和8年度民家向け導入補助について

8月28日現在の申請状況について以下のとおり説明。

令和6年度からの累計では、

- ・ 太陽熱利用設備 8件・8台
- ・ 高効率空調機器 111件・162台
- ・ 高効率給湯機器 47件・46台（中止1件）
- ・ 高効率照明機器 28件・306台
- ・ 木質バイオマスストーブ 13件・14台
- ・ 既存住宅断熱改修 4件

となっている。

特に今年度は導入が多く、太陽熱利用設備、高効率空調機器、高効率給湯機器、高効率照明機器は、既に予算上限に達し受付けを終了している。一方、木質バイオマスストーブと既存住宅断熱改修については、まだ12月末まで申請を受付

けている。脱炭素というと大きな発電設備などに目が向きがちであるが、一軒一軒の住宅でエネルギー使用量を減らしていくことも大変重要であると考えている。

○事務局サポート業務について

松本山雅より、脱炭素事業Webサイト「龍と子」の刷新について以下のとおり説明があった。

- ・ 6月11日には、生坂中学校の「Ikusaka 学」で、1～3年生26名によるワークショップを開催した。その中で、脱炭素事業を知っている生徒が26名中5名だったことが分かり、若い世代にも村の取組みをもっと分かりやすく伝えていく必要性を改めて感じている。
- ・ 新しいサイトでは、「なぜ生坂村が脱炭素に取り組むのか」そして、「それによって村民の暮らしにどのようなメリットがあるのか」を分かりやすく伝えていく。
- ・ コンセプトは、「物語を読むように、未来のことを身近に」
子どもたちが生坂村の歴史から未来までを学べる内容にするとともに、生産世代向けページ、FAQ、相談窓口、最新情報なども充実させ、村外への情報発信や移住・定住促進にもつなげていきたいと考えている。
- ・ ゼロカーボンの取組みは、設備を整備するだけでは完成せず、「なぜ取り組むのか」「村の暮らしがどう変わるのか」を村民の皆さんに理解していただき、一緒に進めていくことが何より大切だと考えている。